令和6年度 大田区立清水窪小学校 自己評価 報告書

令和7年2月13日

〇 本校の概要

・児童数：357、学級数：13、教員数：19（9月1日現在）　開校92周年（11月22日）
・平成23年度より「おおたサイエンススクール」指定校（大田区教育委員会理科教育推進拠点校）、平成25年度より「文部科学省教育課程特例校」として独自教科「サイエンス・コミュニケーション科」を新設、東京科学大学と連携した科学教育を推進
・令和5年度より「コミュニティ・スクール」として学校運営協議会及び地域学校協働本部（清水窪応援隊）を設置
・令和5・6年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定　研究主題「未来の科学を担う『科学大好きな子ども』を育てる」
・令和5・6年度子どもの生きる力を育むプログラム「大田区における特色ある教育の推進」事業実施校として、和太鼓学習「清水窪かしわ太鼓」を実施

〇 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	○	コメント
個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に生きる力を育成します	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートで「おおたサイエンススクールとして、児童の科学への関心や能力を高めている。」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4:95%以上	3	保護者アンケートで「おおたサイエンススクールとして、児童の科学への関心や能力を高めている。」の肯定的な回答の割合が94．2%と昨年度よりも4．8ポイントも下がった。大田区の研究奨励校として2年間、組織的計画的に研究を深めてきた。発表会当日は多くの参観者を得、当日の児童たちが学習する姿にもお褒めの言葉をいただいた。CS科と他教科とのつながりも大切にし、他校のサイエンス教育に新たな視点を与えることができた。 SC科では、取り組む学習内容が例年通りとなることが多く、児童や保護者からは新たな学習内容に期待するものがあるとしたら、今年度はこれまで近隣大学の研究室と結びついた学習を2年も行ったり、持続発展可能なつながりが得られるように大学側と話し合い、また、区に働きかけている。	A	10	・清水窪小学校の多岐にわたる教育の中でもおおたサイエンススクールは特徴的なものだと思っております。東京科学大学に協力して頂いての科学への興味が持てる授業が色々な角度で進められていることは素晴らしく、こどもたちの将来の進路の幅が広げられることと思います。 ・SC科に対する取り組みは、大変ご尽力いただいていると思います。大学の研究室に伺い学ぶ機会も息子は楽しんでいるようです。 ・SC科の内容は教科書がなく考えるのに時間がかかると聞きました。児童が「来年はこんなSC科の勉強ができるんだ」と楽しみにしている場合は、内容は変えなくてもよいと思います。 ・保護者アンケートの肯定的な回答の割合が大きく下がった点が気になります。コロナ禍前のようにSC見学や大学の研究室訪問等ができるようになり、児童たちはいい経験ができていると思う。保護者がこういった経験やSC科が当り前と思っているとしたら残念です。 ・SC科、理科での繰り返し、スパイラル学習でこどもたちのロジカルな主体的な学びがなされておりしっかりと取組めていると思います。又、科学大との連携で学校外で学ぶ機会も作られています。 ・貴校の先進的な取り組みはとても素晴らしく、将来の科学人材の育成にも大きく寄与しているものと思います。 ・①全教員80%と云う事で、今後の日本社会で生きていく上で、安心感を思う。②自助・共助力が大いに期待ができる。③社会で生活に必要な情報の取り込み教育は素晴らしいと思う。 ・児童の科学離れは大きな問題といえる。東京科学大学が地域にあることをしかし連携を密にして児童の興味関心を醸成して欲しい。 ・先生方の努力が研究発表でよくわかりました。科学への感心が大きく育っていると思います。 ・SC科、理科のこどもたちの関心はとても意欲的で素晴らしいと思います。保護者の期待もあるとは思いますが、こどもたちの関心・意欲が引き出せるような取り組みをして欲しいと思います。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:90%以上			B	2	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:80%以上			C		
						1:80%未満			D		
個別目標2 世界とつながる国際都市おおたを担う人材を育成します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者による公開授業アンケートにおいて「和太鼓発表会では、こどもたちが生き生きと演奏していた。」の肯定的な評価の割合((4段階上位2位までの割合)	4:95%以上	4	保護者による公開授業アンケートにおいて「和太鼓発表会では、こどもたちが生き生きと演奏していた」の肯定的な評価は100%であった。 児童たちの学習意欲は日に日に向上し、自宅でも練習したという児童も多くいたようで、練習を十分重ねたことが発表会当日の自信に満ちた姿からも分かったという声も多くあった。 保護者からは皆の心が1つにまとまり今後の活動に期待するという声が多く聞かれた。また日本文化に触れる良い機会なので続けてほしいとの声もあがっているので本校の特色ある教育活動として継続していきたいと考える 。音楽では「表現」で拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを基に、音を音楽へ構成することを通してまとまりを意識した音楽づくりへと繋げる学習をするが我が国のよさを感じ取れる和楽器としての和太鼓学習の取組みは意義がある。加えて3年生以上の各学年の、実態、能力に応じたリズム構成となっており、保護者からも学年が上がるごとに迫力が増し、各学級の個性も感じられるとの声があった。最高学年の6年保護者からは、最後の発表だったがいきいきと表現して名残惜しいとの声があった。	A	11	・今後も積極的に日本文化と関わりを持てるように働きかけていただきたい。全員で取り組む事が、子どもたちのコミュニケーションを豊かにすると考えられるので、できるだけ多くの機会を作れると良いと思います。 ・今後の日本人の英語能力をのばす事は必要不確実ですので小学校でのこの教育は今後も拡大を計ってほしいと思います。 ・和太鼓発表会等を通じて取り組みがなされていると感じます。温暖化等の社会課題へも授業やわくわくスクール等の課外活動でも学び、児童たちが問題意識を持っていることも感じます。 ・和太鼓発表会は短学級時代から20年以上続いている清水窪の伝統なので、これからも継続してほしいと思います。 ・和太鼓発表会はとても素晴らしかったです。引継ぎが大変な事と思いますが、是非続いていって欲しいです。 ・和太鼓を経験できることは素晴らしいことだと思います。6年生で経験できる打鼓音ジュニアさんとの共演は迫力があり、影響を受ける子どもたちも多数いると思います。4年生では太鼓に合わせてくるくる回る場面もあり、楽しそうで良い学びだと思っています。 ・和太鼓の演奏を聴かせて頂き本当に素晴らしいと感動いたしました。低学年から上級生の演奏を聴き自分もそのようになりたいと励み結果高学年になると自信に満ちた素晴らしい演奏が出来る様になると自信に満ちた素晴らしい演奏ができるようになるのだと思いました。先生がたのご指導大変だと思いますが、是非この伝統を守っていってほしいです。 ・和太鼓の演奏は慣れない動きが多く大変だったと思います。ご指導頂いた先生には頭が下がる思いです。 ・3学期の仲良くなりましょう集会でも、コマ・けん玉・おはじき等の遊びを一所懸命に1年生たちがしていて、今どきのゲーム等とはまた違った楽しみを見つけることが出来、良い経験になったのではないでしょうか。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合うの心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:90%以上			B	1	
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:80%以上			C		
						1:80%未満			D		
個別目標3 一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力を育成します	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートで「友達と仲良く過ごしている」の肯定的な回答の割合(4段階上位2位までの割合)	4:95%以上	4	児童アンケート「友達と仲良く過ごしている」の肯定的回答が97．2%と昨年度よりも0．5ポイント上がった。これは特別活動のたてわり活動（遊び、読み聞かせ、落ち葉掃き、全校遠足等）を計画的にまた多くの時間を使って取組んだ成果が表れたものと思われ、日常的にも休み時間、登下校中等で自然と異学年で交流する様子が見られたことからも理解できる。 また「学校のきまりを守って生活している」「人の気持ちを大切にして、いじめなどをしないように気を付けている」の設問に96～97%もの児童が肯定的に回答し、両方とも前年度比で上がっていることからも友達と仲良く過ごし、協調性をもち、親切な心で、思いやりをもって友達に接することの心地よさとともにそれらのことが大切であるという心情、態度、判断する力を特別の教科道徳をはじめ、多くの学習で培ってきた成果ともいえる。 今後もあらゆる教科、活動を通して、教育課程では教科横断的な学びを重視した教育活動を計画し、児童たちがこれからの人生を生きていく力をしっかりと身に付けさせていく。	A	10	・大岡山花壇整備の活動においても学年を越えた協力、同学年における役割分担などがスムーズに行われていて良いと思います。 ・道徳の授業を参観させていただき、先生方が御自身の経験、感じたことを交えて、授業されているのが印象的でした。清水窪小のこどもたちの明るい笑顔は先生方の日々のこどもたちへの優しく適切な御指導の賜物だと思います。 ・楽しく過ごせる学校であることがうかがえ、素晴らしいと思います。 ・縦割り班活動での交流はとても良いと思います。習い事以外でも異学年の子たちと交流の機会があり、普段と違った話が出来たりすると楽しそうです。 ・こどまつりを参観し、異学年で楽しく交流している様子が見られました。準備が大変な事と思いますが、今後も続けていってほしいです。 ・コロナ禍では一緒に遊んだり交流も少なかったと思うので、落ち着いた今年は様々な行事や縦割り活動が出来てよかったです。縦割り班活動は清水窪の20年以上続く活動で、児童たちにとっていい経験のできるものだと思います。班分けや管理等先生方は大変だと思いますが、継続してほしいです ・道徳授業参観で子どもたちが真剣に考えている姿が見えました。縦割り班等の影響もあると思いますが、本校の生徒は他人を思いやることのできる割合が高いと感じます。水泳、持久走等体力作りも重視されており、栄養バランスと味の両方が考えられた給食も有難いです。 ・他人に対して思いやりの心を醸成する事は日本社会の未来に深く影響を及ぼす大変良い教育と思う！ ・教育して頂く側の努力が児童のアンケート結果に表れていると思います。引き続き大変苦労されてると思いますが学校側の取り組みをお願いしたいと思います。また、家庭との連携もお願いしたいと思います。 ・友達同士が仲が良いのは休み時間をみてもよく分かります。元気に校庭で遊ぶ姿を見ると、まさに「こどもは風の子」を体現しているなと思います。約束ごとはきちんと守って、楽しく友達と過ごしてくれればと思います。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3:90%以上			B	1	
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:80%以上			C		
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		1:80未満			D		
		⑤たてわり班活動を実施し、異学年の交流を通して互いに認め合う態度や思いやりの心を醸成している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3							
個別目標4 学校力・教師力を向上させます	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者による公開授業アンケートにおいて「授業の進め方は、こどもたちにとって、分かりやすかった。」の肯定的な評価の割合((4段階上位2位までの割合)	4:95%以上	4	保護者による公開授業アンケートにおいては、肯定的な評価の割合は、100%と高評価を受けている。しかしこれは学校公開時の授業に対しての評価であり、教員も保護者を意識した授業で、一人一人の学習活動の様子が効果的に表われ、教材教具をしっかりと活用できていたことなどが影響していることと思う。 しかしサイエンススクールとして理科・サイエンスコミュニケーション科に対する指導力向上についての取組は保護者、全教員がおおむね及第点の評価となっている。本年度は1学期に全学年で研究授業を行い、9月までには年間指導講師や区教育委員会の指導を受け、それぞれの指導案を検討し指導力の向上を図り、10月の大田区教育委員会教育研究推進校発表会を迎えた。また理科やSC科以外の授業について研究授業を通してそれぞれの教科の専門講師を招きOJT研修を行った。また OJT研修では、「思考ツール」の研修を通して、各学級でそれらを活用した教育実践が行われたように今後も、教育方法をはじめ様々な研修を、校内研究部会、OJT研修会等を通して行って行く。	A	10	・公開授業以外での評価できるようOJTなどを積極的に取り入れることも大切だと思います。 ・教員同士のコミュニケーションが適切にできていて保護者にも評価が良いとの事で学校のさらなる向上が期待できる。 ・教師の方がやりがいをもって働くことができる職場の中には、先生方が適切に休暇・休息をとれることも含まれるかと思います。職員の健康管理への配慮も引き続きよろしくお願いします。 ・日々のSC科等で先生方の工夫が多々見られます。研究発表会でも生徒が楽しそうに授業をうける姿が心象的でした。一方、今日教職員の業務適正化には更に積極的に取り組んでいただきたいです。 ・先生方はお忙しいなか、児童たちにわかりやすい授業をしてくださりありがとうございます。研究発表会に向けての準備等大変だったと思いますが、当日大盛況で先生方の努力の賜物だと思います。 ・清水窪小には良い先生がたくさんいらっしゃいます。前年度担任を持って頂いた麻生先生は、保護者会では一人ひとりの保護者に子どもの様子を伝えて、プリントのコメントはいつも丁寧に書いて下さりクラスのこども全員にここまでしていただくのはこちらが申し訳ないと思ったほどでした。目の前にいる自分のクラスのこどもをみるということをどの先生も十分にやっていただいていますし、それが教師力・学校力へ繋がって行くと思います。毎日見守っていただき教職員さんには感謝しています。 ・先生方の日々のご努力に感謝しております。 ・先生方の努力に敬意を表します。校内研究の成果があがっているように見受けられます。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:90%以上			B	1	
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:80%以上			C		
		④校内研究等を通して、サイエンスコミュニケーション科や各教科等の授業力向上を図るための取組を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1:80%未満			D		
個別目標5 自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「教職員は誠実にこどもや保護者に接している。」の肯定的な評価の割合(4段階上位2位までの割合)	4:95%以上	4	保護者による公開授業アンケートにおいては、肯定的な評価の割合は、97.3%と高評価を受けている。本校ではいじめ不登校対策委員会を毎月開催し、アンケートを基に児童間の問題を多くの教員で見つめ、その対応、指導法について協議している。アンケートの結果については該当児童担任からの報告を基に多角的に見て、的確な判断となるように管理職も交えて時間を確保して実施している。 その対応や指導については、担任以外に生活指導主任、養護教諭、スクールカウンセラー、区支援員をはじめ多くの教職員が関わり見守り、指導を重ねてきた。また、発達障害に限らず、特別に支援を要する児童が多岐にわたっている現状から、毎週木曜日の職員夕会では児童の生活指導等に関する報告会を設け、日々の児童たちの様子、指導や対応を全教員で共有している。またこの会では、児童の、また学級の良い面にも目を向け、児童をはじめすべての人に居場所があり、居心地の良い学校づくりをめざす。	A	9	・いじめ不登校の問題は大きな問題だと日々感じています。先生方の取り組みで悩みを抱えていこどもたちの心が軽くなればと思います。 ・特別に支援を要する児童を見分けるのは大変な事と思う。今後もきめ細かい対応をして頂きたいです。 ・引き続き対応いただきたいです。 ・最近不登校生徒が日本社会で増えていると思います。この学校の取り組みに今後期待しています。 報告・連絡を確実にしていって望ましい、また相談も必要だと思います。先生同士の共有もできていると思います。今後に期待したいです。 ・一人ひとりの児童に一層目を配り大人側も児童とコミュニケーションを積極的に計り見守ることが重要と考えます。 ・居心地の良い学校になっているのはすばらしいことと思います。先生方の努力に敬意を表します。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:90%以上			B	1	
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:80%以上			C		
						1:80%未満			D		
個別目標6 柔軟で創造的な学習空間と安全・安心な教育環境をつくります	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「教職員は、教育環境の工夫、美化に努めている。」の肯定的な評価の割合(4段階上位2位までの割合)	4:90%以上	4	保護者アンケートで「教職員は、教育環境の工夫、美化に努めている。」の肯定的な回答が94．9%もあった。しかし、日々校内巡視、授業観察を通して校内の学習環境を見ると、登校後の児童たちが新たな学校生活や学習を行おうとする意欲を高めるような配慮、準備等が行われているかというとまだまだ努力が必要に思う。また、各学級、特別教室で現在行われている学習の様子、児童たちの生活の様子が伝わってくる学級経営、専科経営に力を入れたい。またそれらを学年として、さらに各教科部、生活指導部等の組織としての取組も意識させたい。 また教育環境の整備に対しては否定的及び不明という回答が5%ある。昨年度よりも4ポイント向上したが、今年度の研究発表会に向けて校内環境整備を組織的に取組んで来たように、今後も学級、専科だけではなく、学年、委員会、部会単位での校内環境整備をしたい。またホームページ学校生活ブログ等においても定期的に校内掲示物、展示物等の紹介を行っていく。	A	8	
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上			B	2	
		③安全点検を確実に行うとともに、食物アレルギーに関する事故防止に努めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:70%以上			C		
						1:70＆未満			D		
個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による地域コミュニティの核としての学校をつくります	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「学校は、地域、外部の力(学習の専門家)をこどもたちの教育活動に活かしている。」の肯定的な評価の割合(4段階上位2位までの割合)	4:95%以上	4	保護者アンケートで「学校は、地域、外部の力（学習の専門家）を子供たちの教育活動に活かしている。」の肯定的な評価の割合は、96.6%であった。 　サイエンス・コミュニケーション科の学習を通して東京科学大学や上野恩賜動物公園教職員との授業を計画的に行っており、東京科学大学とは留学生との国際交流会も行った。低学年生活科、安全指導では保護者の協力を、3年生では地域校外学習で地域、保護者の協力を、4年福祉体験学習では関係機関の協力を得て授業を行ってきた。また地域自治会等の取り組みにも積極的に参加し、児童が地域の中で生活しているという実感をもたせることができた。 また、地域学校協働本部「清水窪応援隊」の協力により、土曜・夏休みわくわくスクールの実施においても地域の多大なる協力を得て児童たちにとって地域が身近に感じられる体験をもつことができた。 今後も多方面に呼びかけ、教育の充実を図るとともに教員のライフ・ワークバランスも考えていきたい。	A	9	・我々地域も一丸となってより良い学校づくりに協力することが重要であると考えます。学校・地域の情報交換も非常に重要なので、意見交換の場をつくれたらと思います。 ・サイエンスコミュニケーション学科の新設素晴らしいです。これからもいろいろな授業経験が（他校の児童ではなかなか難しい）できることになりますね。わくわくスクールでは保護者の熱心な取り組みに驚かされます。また、地域の取り組みへの協力に感謝します。これからもこどもたちの成長の手助けになればと思って活動していきたいです。 ・年間を通して実施されているわくわくスクールが内容も多岐にわたり大変充実していると思います。「清水窪応援隊」の協力なしには実現しないと思います。ありがとうございます。 ・以前と違い、働いている保護者（両親ともに働いている）が多いので、平日の教育活動への協力は難しくなってきていると感じる。土曜日の学校公開時等に行うなど計画を見直していくタイミングがきているかもしれません。 ・コミュニティースクールの取り組みで小学、PTA、応援隊、地域、科学大が連携して活動が出来ている。 ・
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:90%以上			B		
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:80%以上			C		
		④研究室訪問、国際交流、わくわくスクール等、東京科学大学や地域と連携した教育活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		1:80%未満			D		

〇「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

〇学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点